



コロラドスタディツアー2015

(7月31日～8月11日)

実施報告書

(公財)出羽庄内国際交流財団

目 次

コロラドスタディツアー

- はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
- スタディツアー 日程表・・・・・・・・ P 2
- デンバー地図・・・・・・・・・・・・ P 3
- 参加者名簿・・・・・・・・・・・・ P 4
- 日記・・・・・・・・・・・・ P 5
- 参加者によるツアー全体報告書・・・・ P 19
 - ◇ 内ヶ崎 智広・・・・・・・・ P 19
 - ◇ 遠藤 あかり・・・・・・・・ P 21
 - ◇ 折居 優・・・・・・・・ P 22
 - ◇ 齋藤 颯太・・・・・・・・ P 24
 - ◇ 佐藤 響・・・・・・・・ P 26
 - ◇ 長岡 真結子・・・・・・・・ P 28
 - ◇ 百瀬 凜・・・・・・・・ P 30

はじめに

(公財) 出羽庄内国際交流財団では、2008年よりコロラドスタディツアーを実施してきましたが、今年もたくさんの方のご協力を得て、第8回目となるスタディツアーを無事に終えることができました。

今年は中学生3名、高校生4名の意欲ある若者が参加し、7月31日から8月11日までの12日間、アメリカコロラド州で素晴らしい日々を過ごしてきました。この報告書には、毎日の日記と、参加者全員の感想などが綴られています。

ツアーの初めのうちは、英語だけの環境に戸惑ったり、恥ずかしがったり、また時差や高山地帯の気候もあり疲れた様子も見受けられました。しかしそこは好奇心旺盛でなんでも吸収する年ごろのみなさん。毎日顔を合わせるたび、どんどん元気になっていきましたし、このツアーを楽しんでいる様子が見ええました。自分から積極的にホストファミリーと交流もしているようで、移動のバスでは、「昨日はホストファミリーと一緒に〇〇をした」、「朝は〇〇を食べた」など、楽しそうな会話が聞こえてきました。

このツアーの目的は、コロラド州の人たちとの交流を通して国際的感覚を体験的に身につける、英語実践力を向上させることですが、それが十分に果たせたプログラムだったと思います。

このツアーは、今年も多くの方々に支えていただきました。現地コーディネーターの村治孝浩さん、ホストファミリーの調整をしてくださったヴァネッサ・トランさん、英語教育でお世話になったスプリング・インスティテュートの皆さん、コロラドユースインアクションの皆さん、ジョアン原田さん、ピクニックに招待してくださった日米協会の皆さん、在デンバー総領事館の皆さんなど、関係者皆さんのおかげで大変充実したものとなりました。本当にありがとうございました。

今回のツアーを通して培った経験が、将来子ども達の中で生かされ、また今後も鶴岡とコロラドとの交流が続くことを願っています。

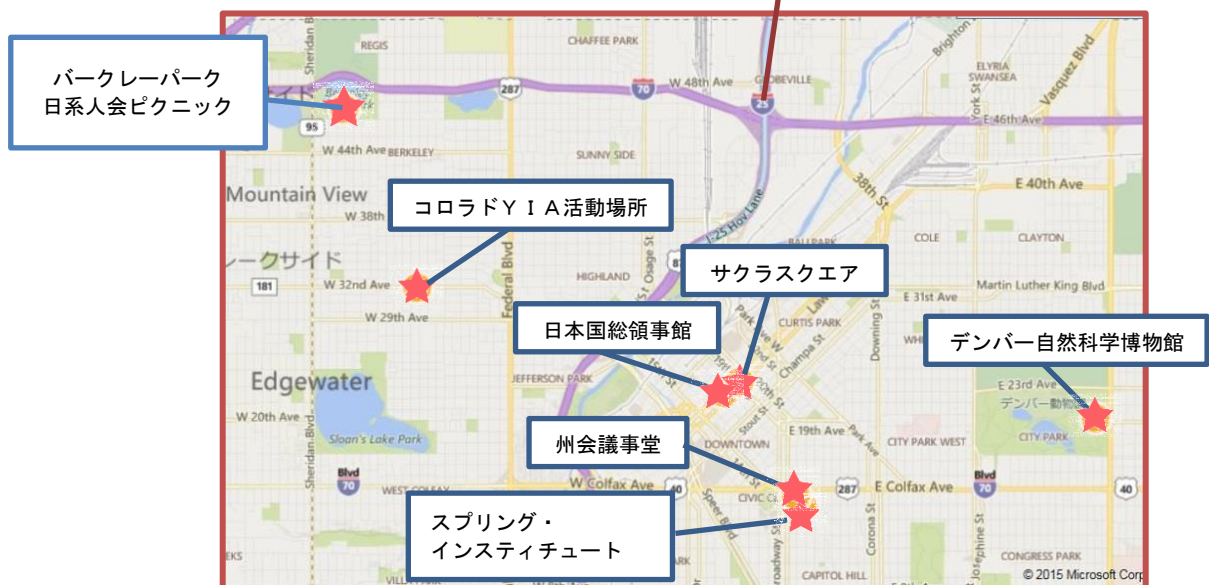
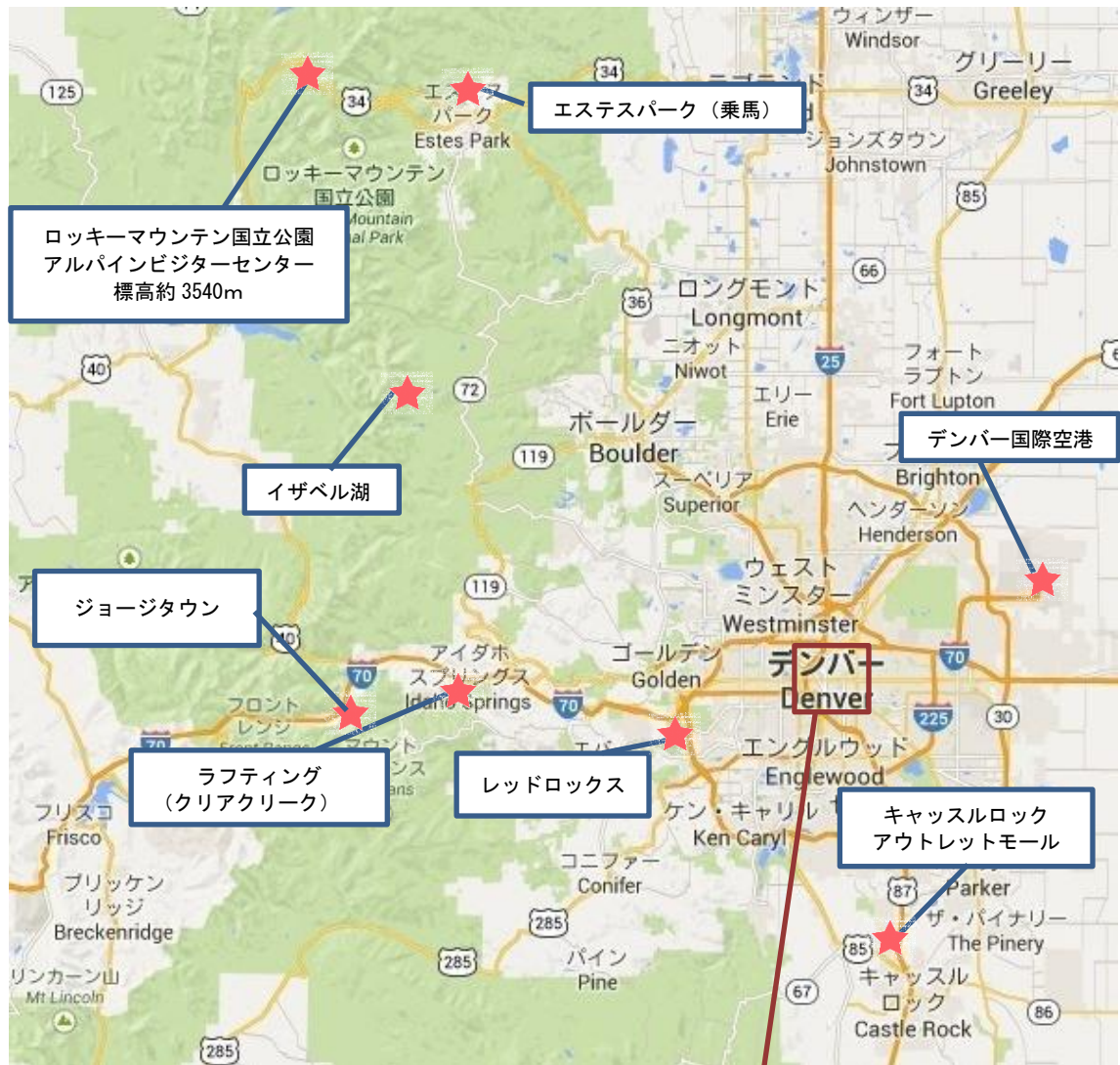
(公財) 出羽庄内国際交流財団
佐藤 綾子

スタディツアー 日程表

期間：2015年7月31日～8月11日 12日間

月日	時間	訪問先など	備考
7/31	8:40	庄内空港→羽田空港	成田空港までバスで移動
	18:00	成田空港出発	ユナイテッド航空 138 便
	14:30 ※現地時間	デンバー国際空港に到着	
	午後	コロラド州会議事堂見学	
	夕方～	ウェルカム BBQ パーティー	ヴァネッサ・トラン氏宅にて
8/1	終日	イザベル湖ハイキング	
8/2	午前～午後	日系人会ピクニックに参加	醤油、味噌味の芋煮、それぞれ3鍋ずつ振る舞い、花笠踊りを披露した
8/3	午前	スプリング・インスティテュート	英語学習(1回目)3時間
	午後	デンバー自然科学博物館	
8/4	午前	エステスパークで乗馬	
	午後	ロッキーマウンテン国立公園	
8/5	午前	デンバー日本国総領事館 表敬訪問	
	午後	スプリング・インスティテュート	英語学習(2回目)3時間
8/6	午前	クリアクリークでラフティング	
	午後	ジョージタウン見学	
	夕方～	コロラドユースインアクションの活動に参加	
8/7	午前	スプリング・インスティテュート	英語学習(3回目)3時間
	午後	キャッスルロックアウトレットモールでショッピング	
8/8	終日	ホストファミリーデー	
8/9	終日	ホストファミリーデー	
8/10	12:40	デンバー国際空港 出発	
8/11	15:20 ※日本時間	成田空港到着	羽田空港までバスで移動
	21:20	羽田空港→庄内空港	最終便

コロラドスタディツアー 訪問先の地図



参 加 者 名 簿

	名前	学校 学年
1	内ヶ崎 智広	鶴岡中央高等学校 2 年
2	遠藤 あかり	羽黒高等学校 2 年
3	折居 優	立川中学校 2 年
4	齋藤 颯太	鶴岡工業高校 2 年
5	佐藤 響	鶴岡中央高等学校 2 年
6	長岡 真結子	鶴岡第 2 中学校 2 年
7	百瀬 凜	藤島中学校 1 年



コロラドスタディツアー 日記

7月31日

担当：佐藤 響

～日本で～

今日は朝からデンバーに向けて研修を積んできたみんなと飛行機で移動。庄内空港にいる時みんなの顔はまだ普通。緊張や不安の表情はありませんでした。

これから日本出る出国手続き。みんなの顔がこわばってきた。

～アメリカ到着後～

機内で10時間過ごしていよいよ入国！

まず空港の広さに驚いた。

空港に着いてから入国審査があった。初めて英語を使う絶好の機会だと思ったが、子どもだとみなされ、審査官が通訳を呼んで日本語で入国審査をしたので、がっかりした。

コロラド州会議事堂ではコーディネーターの村治孝浩さん（タカさん）からコロラド州ができた経緯を聞いた。

コロラドはスペイン語で“赤い土”ということ。アメリカの歴代大統領について、などを教わった。コロラド州知事と日本は関わりが昔から深いと知った。昔からのつながりが今も続いている素晴らしいと思った。



その後、バネッサの家に着いてから早速ウェルカムパーティーをした。自分も含めみんな少し緊張がありあまり話せなかった。



8月1日

担当：長岡 真結子

2日目は、イザベル湖にハイキングしに行きました。とても天気が良くて、たくさんの人がいました。

歩きながら、タカさんになぜ小さな岩が出来るのかということや、コロラド州の花・コロンバインのことなどを教えてもらいました。すれ違う人がみんな笑顔であいさつしてくれたりして、いい国だなーと思いました。みんなと色々な話をしているうちに、意外と早く頂上に着きました。そこで昼ご飯を食べました。おかずを交換し合ったり、鳥を見たりして楽しかったです。

しかし、帰りは本当に地獄でした。疲れすぎて足を踏み外しそうになったり、歩きながら寝そうになったりして、本当に辛かったです。

景色はとっても綺麗でしたが、すごい疲れたのでもうしばらく行かなくていいかなと思いました。



8月2日

担当：遠藤 あかり

今日は公園で日系人の人たちやホストファミリーが集まって、ピクニックをした。山形の郷土料理である“いも煮”を作った。内陸が中心のしょうゆベースと、庄内が中心の味噌ベースの2つの種類を作った。私は家で庄内の方を作ったことがあったので味噌ベースを担当した。それぞれの家庭で少しずつ作り方が違うので味の決め手に多少迷ったが、最終的においしくできたので良かった。ピクニックには多くの日系人やアメリカに移住してきた日本人などがいて、たくさんの人と交流することができてとても楽しかった。アメリカには馴染みの薄い“いも煮”はとても人気があり、配り始めてすぐになくなってしまった。



ピクニックでメインのひとつだった花笠踊りでは、私と颯太が鶴岡や花笠踊りについて英語で紹介した。私は紹介した時とところどころつまづいてしまったので、聞き取ってくれるか心配したが、後でホストファミリーに「どうだった？」と聞くと「大丈夫！すごく上手だったよ、発音もきれいだったよ！」と言ってくれて、たくさんの人が拍手をしてくれたのですごく嬉しかった。踊りをみんなで練習する

中で、動きがわからなかったり、踊りが合わないこともあったが、本番では全員が楽しくできたので良かった。

また、多くの人たちとコミュニケーションをとることができた。その中で鶴岡から移住してきた方とお話しさせていただく機会があり、「恥ずかしがらないこと」、「何でも挑戦すること」、「自分をアピールすること」、「アメリカに行く機会をくれた親や、周りの人に感謝すること」、これらがとても大事なことだと教えてもらった。

日本でもなかなかできない体験ができて良かった。

8月3日

担当：内ヶ崎 智広

午前はスプリング・インスティテュートで英語の勉強をしました。
建物や職員の方々の紹介、ホストファミリーとの接し方やアメリカの通貨について学びました。そして、この日に学んだ事（～しましょうか？、～してください）の復習をすることと、日記を英語で書くことが宿題として出されました。



午後はデンバー自然科学博物館の見学でした。
お昼を済ませた後、自然の歴史コーナー、人体コーナーや鉱石コーナー、さらには、実際に研究が行われている場面を見学しました。日本とは違った様々な展示物があり、とても興味をひくものばかりでした。
何人かは博物館の売店でお土産を購入しました。



帰宅後はホストファミリーごとの活動があり、僕がお世話になったモンソン家ではホストマザーとクッキー作りをしました。生地には沢山のm&mチョコレート混ぜ丸く形成し、2分45秒焼いて完成でした。
日本では考えられない位の甘さでしたが、とても美味しかったです。

8月4日

担当：長岡 真結子

5日目は、乗馬をしてから、ロッキーマウンテン国立公園に行きました。

乗馬は初めての経験で、楽しかったけど、とても怖かったです。そのせいかデイジー(乗った馬の名前)にすごくなめられて、足を噛まれそうになりました。乗りながらなんとか写真を撮りました。去年は雨が降ったと聞きましたが、今年は天気が良くて安心しました。機会があったらまたやってみたいです。



次にロッキーマウンテン国立公園に行きました。去年社会の時間にロッキー山脈のことを勉強したので、行けて嬉しかったです。行く途中、タカさんがアイス無料クイズを出してくれましたが、全然答えられなくて悔しかったです。車から降りるととっても寒く、凍え死ぬかと思いました。



昼ご飯を食べた後、おみやげを買いました。あかり先輩にお金(コイン)を入れてメダルを作るのをおごってもらいました。ありがとう先輩。その後頂上へ登りました。とっても景色が綺麗で、みんなでジャンプして写真を撮りました。富士山と標高が一緒だそうなので、富士山には登らなくていいかなーと思いました。

山を降り、帰ってくる途中にアイスを買いました。クイズに正解してアイスが無料の人もいて、うらやましかったです。長い一日で疲れたけど、楽しかったです。

8月5日

担当：遠藤 あかり

今日は総領事館を訪問した。こんな機会はこのプログラムに参加しない限りはないものだろう。みんな朝から少し緊張気味になりながら、バネッサの家を出発した。

総領事の伊藤 眞氏から教えていただいたのは、総領事館で行っている仕事内容だ。主に大きく分けると4つで、戸籍関係やパスポートなどの事務、在住日本人の選挙に関する業務、経済交流として企業などのサポート、文化・国との交流など、日本とコロラド・デンバーの間の関係をより良くするために頑張っている。



私達から総領事にいくつか質問することができたので、私は「日本とアメリカではどのように教育環境が違うのか?」、「戦争への概念の違いはありますか?」という質問をした。アメリカ人の戦争に対する概念はやはり日本人とは違って“原爆は仕方のないことだった”という考えも少なくないらしい。しかし、総領事はその考え方

には否定的で、「やっぱり原爆を落とすことが仕方なかった、ということはない。」と言っていた。アメリカの教育では、歴史の中で日本のことを中傷する内容もわずかに書かれているが、全体としては戦争があった事実を学ぶそうだ。

総領事館から帰ってきたみんなは、やはり緊張したのか、あまり元気がなかったが、そのままジャン先生のところまで英語の勉強だ。それでもみんな最後までジャン先生の話聞いて頑張っていた。今日の夜はホストファミリーとゆっくり過ごして明日に備えよう。



8月6日

担当：内ヶ崎 智広

この日は8時30分に集合し、ラフティングを体験しに行きました。
数分程説明を受けた後、いざ出発。
アメリカ人の家族と一緒にでした。
最初は川の流れが優しく、大したことは無いと思いましたが所々流れが激しく水にのまれる場所がありました。
少し恐怖を感じましたが、インストラクターの楽しいガイドとロッキー山脈の美しい景色のおかげで最高の時間になりました。

午後は昼食を済ませた後、ジョージタウンへ向かいました。
ジョージタウンは、映画の中のワンシーンに登場しそうな雰囲気のある街で、やはり沢山の観光客がいました。趣のあるお店でアイスを食べ、その後は自由行動。街の雰囲気を楽しむだけでも十分過ぎるくらいですが、お土産探しにお店を回りました。

日本では3,000円弱しそうなアメジストの塊が、800円程度で買えたのは非常に驚きました。



帰りの途中、レッドロックスへ向かいました。そこにはデンバー市の街並みが見下ろせる素晴らしい景色が広がっていました。



この日のラストは、コロラドY I Aの皆さんとの交流会でした。最初は日本語での自己紹介ゲーム。単純な内容でしたが、お互い助け合いながら楽しく学びました。次は英語の歌を用いた手遊びゲーム。正直歌詞は聞き取れませんでした、ノリでどうにか乗り過ごしました。最後に日本の伝統的な(?)花いちもんめ。お互いルールがハッキリしないままでしたがやはりそこはノリで楽しい時間を過ごしました。

コロラドY I Aの皆さんは来年鶴岡市に、それも僕が通っている中央高校を訪れるという事でとても楽しみです。ホームステイの受け入れも考えています。



8月7日

担当：佐藤 響

今日は最後のジャン先生との授業だった。

ネイティブアメリカンについて詳しい先生からお話を聞くことができた。とても興味深かったので、日本に帰ってから、自分でも色々調べてみようと思った。
滅多に聞くことのできない話ということで関心を持って聞くことができた。



ジャン先生の授業を受けるにつれて、自信を持って話せるようになった。それに、ホストファミリーと話す機会も増えて、英語の表現やイディオムなど吸収することができました。

この学校で、自信を持って話して、ミスをしたら先生が教えてくれるというやり方がとてもいいと感じた。

もう少しジャン先生の授業を受けたいと思った。



8月8日

担当：百瀬 凜

この日は待ちに待っていたホストファミリーデー！昨晚からワクワクして眠れないくらい……。まず朝目が覚めると、「朝食を一緒に作ろう！」とアインスリーからのうれしい言葉が。一緒に“パンケーキ”を作りました。イチゴをのせてハチミツをかけると、とても美味しかったので、私は昨日のワッフルに続き、またまたアメリカの食事が大好きになりました。



午前中はアインスリーとアディソンが通っているプールへ。日本では私は屋内プールにしか行ったことがなかったので、中にあるのを想像していたら、外にあったのでビックリしました。この日は気温が高く、日差しもあり暑かったので、プールの水が冷たくてとても気持ちよく泳げました。クロールや背泳ぎをして3人で楽しみましたが、アインスリーとアディソンは泳ぎがとても上手でうらやましかったです。お昼はジュリーとベンも一緒にみんなでチーズバーガーを食べました。日本のバーガーと違って、口にはまらないくらい大きかったです。チーズがトロトロしていてもう一回食べたくて忘れられません。

その後2時頃まで、また泳ぎました。お昼頃にはプールの水もだんだん温かくなってきてますます泳ぎやすくなりました。



プールから上がった後はベンとアインスリーとアディソンと一緒に馬を見に行きました。日本ではあまり馬を見ることがないので、目の前でたくさん見ることができて、とてもいい思い出になりました。子馬もいて可愛かったです。

家に帰ると、ジュリーとベンが出かけたので、アインスリーとアディソン

が通っている学校へ行き、遊具遊びを楽しみました。ジャングルジムみたいに登っていく遊具がたくさんあって面白かったです。地面にもゲームをするときに使う絵が書いてあってユニークで面白いアイデアだなと思いました。それから家に帰って、車庫の前でゴルフをしたり、庭にテントを張ってキャンプ気分の中で遊んだり。

家に入ってから、お菓子を作りました。私とアディソンはクッキーとクッキーの間にクリームをはさんでチョコチップをのせたお菓子を作り、アインスリーはポップコーンにキャラメルをかけて食べていました。3人で食べあいつこをして、2人が作ったのもとてもおいしかったです。たくさんのお菓子があったのでどれを使って作るか選ぶのも楽しかったです。



夜ご飯には夕食にマカロニチーズが登場しました。日本ではあまり食べたことがなかったので、これも感動でした。オニオンズの形をしていて可愛かったです。食事の後はリビングで「オースティン&アリー」を見ました。この時私はなぜか少し1人で眠るのが心細くなっていたので、2人に「今日は3人で一緒に寝ようよ」と思い切って言うてみました。すると2人はすぐにオッケー！この日はなんだかいつもより心地よい眠りにつけました。ありがとね！

8月9日

担当：折居 優

ホストファミリーと丸1日過ごせる最後の1日でした。

朝食は、ワッフルを食べました。アメリカのワッフルは、日本のものと違ってワッフル自体があまり甘くなくて、シロップやジャムをつけて甘くする感じがとても美味しかったです。

(実は前日にもワッフルを食べさせてもらったのですが、美味しかったのでまたリクエストしたんです。笑)



それから、プールに連れていってもらいました。小学校以来のプールでテンションが上がりました。ラジューだけでなく、バネッサ、ステイシーの家も一緒に楽しかったです。私がステイした家の男の子、ミランはプールでアルバイトしているらしく、泳ぐのが上手かったです。去年ステイした家のジョセフィーヌは、私よりも2つ年下なのに、背も高いしかわいいしうらやましいです。去年も十分大人

っぽかったのに1年経ったらまた綺麗になっていて、負けた感すごいです。金髪美少女になりたい(笑)

帰ってからは、ラジューが作ってくれたヌードルを食べて、夕食の準備を手伝いました。

この日はタカさん、綾子さん、幸さん、バネッサとバネッサの友達がラジューの家に集まって、夕食を食べました。全員で約20人です。ラジューは、20人分のご飯を朝から準備してくれていました。本当に感謝です。ラジューのネパール料理は少しスパイシーだったけど、おいしかったです。

夕食後、真結子さんがみんなに抹茶をたてました。普段、よくしゃべる、やんちゃな真結子さんですが、このときは凜としていて、みんなびっくりしていました。私も、美味しくいただきました。



この日の夜は、パッキングをしながらみんなで帰りたくないね～と話していました。本当に優しくしてもらったから、とても別れが惜しくて、次の日の事を考えると涙が出てきました。

最後の日は、ホストファミリーとたくさんコミュニケーションをとれて良かったです。楽しかったけど少し切ない、そんな日でした。

8/10～8/11

担当：齋藤 颯太

私たちはホストファミリーの皆さんに別れを告げ、バネッサさん宅に集合し、午前9時30頃に空港へ出発しました。

荷物を預け、保安検査場前でタカさんと別れ、出発ロビーへと移動しました。

12時30分頃にコロラドを離れ、11時間の飛行に入りました。

機内から見えた風景は不思議と懐かしい感じがしました。

午後3時に成田空港に到着しました。

搭乗口を出ると、湿気の高さと暑さに驚きました。

東京は28度、デンバーは20度で乾いていたので、非常に体感温度が高かったです。

羽田空港に到着し、食事を取り、午後8時、庄内空港へ出発しました。

荷物を受け取り、空港を出て見慣れた風景を見ると、「帰ってきたなあ」という実感がわきました。

また、機内で寝ることなく過ごしたため、ほぼ時差ボケがありませんでした。

家に着くと、もちろん「やっと着いた」と思うと同時に、「また行きたい」という感覚がしました。

お疲れ様でした。



コロラドスタディツアー 報告書

コロラドスタディツアー参加報告書

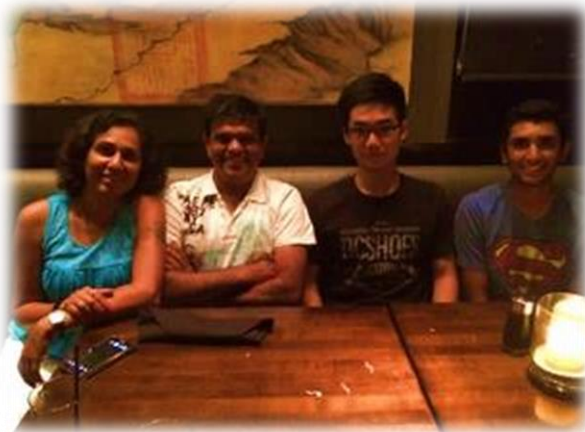
鶴岡中央高等学校 2年 内ヶ崎 智広

ツアーに参加した理由は親の勧めでした。日本国内だけで生活していても得られる知識や経験は十分あるが、それ以上のものを得ることがこれからの時代には必要だ、という意見に賛成し応募しました。

アメリカへ行くにあたり、何か具体的な目標を立てなければと思いましたが異国の地での生活とは何かを知らなかった私は、特に目標を立てることなく日本を旅立ちました。

アメリカに着いてからは、すぐ移動がありました。飛行機が遅れたこともあり時間に余裕は無くゆっくりと景色を眺める暇なんてありませんでしたが、それでも分かる土地の広さ。日本とは全く違った風景に戸惑いを隠せませんでした。

バネッサさん宅でのパーティーが終わった後、私がお世話になるモンソンさん宅へ向かいました。家には着いたものの、時差に伴う疲れで体調が優れなかった私はすぐ寝床へ向かいました。



2日目は早速ハイキングだったのですが、ホストマザーのシンシアさんはその日から毎日ご親切に昼食を作ってください、とても助かりました。正直私はアメリカ人は冷たいという印象がありました。しかしシンシアさんはじめ、お店の店員さん、隣人の方々、それぞれ親切な方ばかりで、これまで私が思っていたアメリカ人の印象とは全く異なっていました。とても安心した私は、さらにホストファミリーと仲良く

コミュニケーションがとれるようになっていきました。私はもう一組、クマーさん一家にもお世話になりました。そこでも積極的にコミュニケーションを図り楽しい時間を過ごしました。

アメリカ滞在中は日本では絶対に経験出来ない事が沢山ありました。

中でも私の印象に残っているのが乗馬体験です。日本だと区切られた柵の中だけの乗馬ですが、私が体験したのは山道の上下りでした。

とてもスマートな馬のおかげでロッキー山脈を普段にはない形で楽しめました。



アメリカで学んだ事、見たこと、全てが私にとって新しいもので、新しい世界を見せてくれた気がします。結果的に、アメリカでの生活はとても忙しく特に目標を立てていなかった私も充実したものになりました。

コロラドスタディツアーの大成功は、サポートしてくださった現地の皆様、ガイドのタカさん、国際村のスタッフの皆様、一緒に行った仲間、鶴岡市、そして何より笑顔で送り出してくれた親に感謝したいです。

世界には日本とアメリカ以外にも沢山国があり、人々がいて、それぞれ異なった文化や歴史があるはずです。もっと他の国の事も知って、様々な世界を持った人間に成長したいです。

お世話になった皆様、本当にありがとうございました。

コロラドスタディツアー参加報告書

羽黒高等学校 2年 遠藤 あかり

私がこのコロラドツアーに参加したのは、知人からの紹介だった。前から海外に行ってみたいという気持ちは強かったが、なかなか勇気が出ずにいた。そんな時に声をかけてくれたのは国際村で韓国料理店を営んでいる麻美さんという人だった。「海外に行くと価値観が変わるよ！」そう言われたのがきっかけで、ツアーに参加した。



日本を出発するときは本当に緊張したが、アメリカに着くと一面の大地が広がり、緊張は感動と期待に変わった。

アメリカでの2週間近くの生活は、すべてが初めての体験で、ラフティング、乗馬、総領事館訪問、ロッキー山脈、ジャン先生の英語の授業……。どれも全部最高の思い出になった。

プログラムの中で特に印象的だったのは乗馬で、初めて馬を

見たこと、馬の手触りはさらさらとしていて、不思議と恐怖は感じなかった。馬に乗って見たアメリカの雄大な自然に心が洗われるようだった。

アメリカで1番楽しかったのは、ホームステイだった。

右も左もわからない土地で、私のことを本当の家族のように優しくしてくれたことは、私の心の大きな支えになった。

初日から私はたくさんホストファミリーに話しかけるようにした。「おはよう！」、「今日は楽しかった！」、「おやすみ、また明日」。最終日には自分の将来の夢を話すことができるくらいに仲良くなった。

今回初めて海外に行ってみて、楽しいこともたくさんあった。その反面、なかなか自分の思うような英単語が出てこなくて、悔しい思いもした。だから、次に海外に行くまでに自分の英語に磨きをかけていきたい。



コロラドスタディツアー報告書

立川中学校 2年 折居 優

今年、私は2回目でしたが、去年よりもはるかに英語が理解できていました。去年はネイティブの速さについていけず、自分の思いもあまり伝えられなくて、悔しい思いをしました。それで、次に行くときはもっと話せるようになる！と、報告書に書いたのを覚えています。そして、ことし自分でもびっくりするくらい聞き取れて、本当に嬉しかったです。それから、英語だけでなく、歴史についてもより理解を深められて良かったです。

ツアー全体の感想としては、短かったと感じています。1日があっという間で、もう少し長くてもいいかなと思いました。でも、1日1日を大切に、思いっきり楽しめました。

その中でも思い出に残っているのは、

第一位 ラフティング

晴れの日々のラフティングは最高でした。スリル満点で、落ちるんじゃないかと思いました。

第二位 乗馬

1時間位乗っていると、馬が言う事を聞いてくれるようになって、かわいく思えてきました。

第三位 ホストファミリーデー

一緒に映画を見たり、ショッピングに行ったり。ホストファミリーデーに限らず、ホストファミリーと過ごす時間一分一秒が幸せでした。

去年は土砂降りだったラフティングや乗馬は、晴れていて思いっきり楽しめました。初年は参加者が少なく、私も含めて4人しかいませんでしたが、今年は7人ということで、大勢で楽しみを共有することができてうれしかったです。

感心したことがあって、それは、私がステイした家のミランです。ミランは15歳で思春期真っ只中のはずなのに、親に反抗したりしないんです！「ゲームをやってないで、掃除機かけてくれない？」って言われたら、「嫌だ」とか「なんで？」とか言って反抗してしまいましたが、ミランはせっせとこなすんです。私は、そういうことがあるので自分を改めようと思い、帰国前日、ラジュアの



作ったカレーに、ミランみたいないい子になる！と誓いました（笑）

帰国の日、みんなで朝食を食べている時「もう会えないのか」「次に会えるのはいつになるのかな」と悲しくなって涙があふれてきました。10日間という長いようで短い期間で、本当に親切にしてもらい、家族の一員として歓迎してくれました。その日々を思い出すと、今でもありがた



くて、懐かしくて涙が出てきます。寂しくて泣いている時、ラジューに、「また来て。いつでも待っているから。」と言われ、本当に嬉しかったです。

私は、バネッサやジャン先生と再会したくて、このツアーに応募しました。でも、今年、また新たな出会いがあって、また行きたくなってしまいました。タカさんにも、「優は3回目、またおいで！」と言われましたし……。来年は行けないけど、いつか絶対またコロラドに行きます！！

その時がきたら、成長した私を見せたいと思います。その日まで、この思いを胸に、進んで行きたいと思います。

コロラドスタディツアー参加報告書

鶴岡工業高等学校 2年 齋藤 颯太

志望動機は「とりあえず海外を見てみたい」という大雑把なものでした。知識は若干の英語くらいで、文化も歴史も社会情勢も、ほとんど知りませんでした。でもいつか海外を自分の目で見てみたいな、と思っていました。そんなとき、偶然このツアーの存在を知り、すぐに応募しました。

アメリカに到着してまず思ったのが、途方もなく空が広いということです。空港の周りはどこまでも平地で、湿気がない所為かものすごく遠い空まで曇りなく見えるのには驚きました。

さらに日本よりずっと空気が乾いていて蒸し暑さ

などなく、過ごしやすい気温な筈なのに日差しが肌に痛いほど強いのです。併せて高地だから酸素も薄いという特殊な気候で、初めは大変でした。

また、アメリカでの生活は、初めのうちは過酷でした（特に時差ボケ）。日付が変わる直前まで寝付けなかったり、ものすごく早朝に目が覚めたりしました。ツアーのプログラムもなかなか内容の詰まったものだったので、毎日の疲労抜きが大変でした。でもそれも初めの数日だけで、慣れてくるととてつもなく楽しい日々でした。乗馬やラフティングなどのアクティビティも、スプリング・インスティテュートでの語学学習も、駐車場でバカでかいピザを頬張ったのも、非常に良い思い出です。



僕のホストファミリーを担当してくださったのはバーテルトさんご一家。ディズニー作品で見たことがあるような美しい住宅街の一角に居を構える、地上二階、地下一階、裏庭まで完備のとても綺麗で素敵なお宅です。

お父さんはなんと外科医。お母さんはなんとネパール出身。そして考えられないほど仲の良いご兄妹。とてもユニークで温かいご家庭でした。最初は人見知りで何も話せませんでしたが、だんだん自分の要求・意思を伝えることができるようになり、コミュニケーションを図る事が出来ました。

また、体調や様々なことに常に気を遣って頂き、ランチのサンドイッチの用意をはじめ、洗濯、食事、送迎等々、大変お世話になりました。

一緒に装飾品を作ったり、映画を見たり、名前を漢字で表記して見せたり、アメリカンスラングを教えてもらったり、みんなとパーティーをしたりと非常に楽しい時間でした。

毎日のプログラムはとても充実していました。12日間は長いようで、過ぎてみれば一瞬でした。歴史と文化を見学し、コロラドの、日本では想像がつかないレベルの大自然に触れ、窮めて実用的な英語を学びました。そして国と国の違いや、価値観、街が成長するヒント等々、様々なことを考えさせられ、色々なものを色々な角度から考えようと思いました。



特にロッキーマウンテン国立公園は壮観でした。車で富士山並みの標高まで上がり、暴風の吹く中での絶景には目を見張りました。世界の広さと地球の丸さを体感できる場所でした。ホームステイ、語学学習など、普通の旅行会社が企画するツアーでは絶対に学べないと思える内容でした。短い期間でしたが、数年分の体験ができました。

最後に、今回のツアーで一緒させてもらった皆さん、ホストファミリーの皆さん、国際村スタッフの皆さん、現地ガイドのタカさん、両親に深く感謝します。それでは最後に、私たちを支えてくださった皆様、本当にありがとうございました！

コロラドスタディツアーを終えて

鶴岡中央高等学校 2年 佐藤 響

今回参加した動機に、学生のうちに海外に行きたい、ということと、自分の語学力の中途半端さを打開したいということがありました。

何もかもが初めてだった今回は、全てにおいて新鮮でした。

現地ではタカさんのガイドもありわかりやすくコロラドの経緯を知ることができました。コロラドに人が住むようになった歴史、生活スタイルや食生活など学校では聞けないことを聞くことが出来ました。

このツアーでは日本ではできない経験をしました。

それはリアルな英語であふれている地で生活することです。ホームステイや授業、ピクニックなど全てが英語でした。

特にジャン先生の授業は、日本語禁止の授業で、全て英語でした。英語で伝えることや聞くことにはじめは焦りを感じましたが、少ない授業の中で向上できたと思います。

また、学んだ英語を活かしたのがホームステイでした。習った英語を使って、お手伝いを申し出たり、誘ったり、といった会話を行うことができました。



英語の表現が固かったり、間違っていたときは、ホストファミリーがより口語的に直してくれたり、教えてくれたりと、とてもいい環境でした。

国立公園やピクニック、ラフティングでは日本にはない規模の自然を味わってきました。

標高によって花や植物などの生え方が違っていたり、自然の力や人間と自

然の距離間が大事なことを知りました。 自然に入り込んでしまうと 生態系に大きく影響をもたらしその後の自然を変えてしまうようです。人間による無責任な行動はいけないと、実感しました。

日本に戻ってきてまず、この企画やホストファミリー、受け入れてくれた人たちに感謝でいっぱいです。
他の高校生にはない経験ができたと思います。

また自分の英語、海外に対する考え方が広がって、また大きく変わりました。
国を超えて文化の違う方々と交流することができて本当にいい経験でした。



コロラドスタディツアー報告書

鶴岡第2中学校 2年 長岡 真結子



私はこの夏アメリカに行
って、たくさんの経験をしま
した。そこで、日本との違い
に何回も驚きました。それは
たくさんありますが、その中
から特に驚いたことを二つ
説明します。

一つめは、何もかもが大
きいことです。家はバスルー
ムが四つもある大豪邸。車は
軽自動車なんてないし、小麦
粉の袋は5kgのいつも買っ
ている米袋よりも大きい。そ

の他にも、道路、洗濯機、コーヒーカップ、ドーナツの箱・・・アメリカの物
は本当に全てが大きく、「日本はちっちゃい国だなあー」と何度も思いました。

二つめは、食べ物をそこまで大事にしないことです。ホストファミリーデー
1日目の夜、ハンバーガーを食べに行ったとき、ホストファザーのジェイコブ
に“Are you full?”と聞かれ、“Yes”と答えた瞬間ポテトをゴミ箱に捨て
られました……。私がアメリカで一番びっくりしたのは、実は何のためらい
もなくポテトを捨てられたことなのです。日本では、よく「自分が食べる分だ
けとりなさい」と言われますが、アメリカの人は全くそういうことを考えてい
る様子はありませんでした。このような考え方の違いなどは、とても勉強にな
りました。



行く前は、かなり不安でしたが、貴重な体験が出来たし、英語力もつき、しかもすごい自信が持てるようになったので、本当に行って良かったです。是非また行きたいです。



コロラドスタディツアーでの思い出 2015

藤島中学校 1年 百瀬 凜

私は生まれたこの鶴岡が好きで、「一生ここにいるからね」と、いつも家族に言っていました。しかし、その思いをすっかりかき消してくれたのが、この『コロラドスタディツアー』でした。

帰国後私が久しぶりに会った家族に言った言葉は、「コロラドに帰りたい!」。両親ともにビックリ顔。でも二人ともちょっと喜んでいたような。「外に出ていろんな経験を積んでもらいたいな」って前から言っていたので。日本に帰ってからは、うちのリビングには2つ時計が置いてあります。1つは日本時間用、もう1つはコロラド時間用です。「今頃アインスリーたち何やってるかなあ。」毎日の口癖になっています。

私はこのツアーに参加して1番心に残っている事は、ホストファミリーとの出会いと、ロッキーマウンテンの景色、そして初体験だった『ラフティング』と『乗馬』です。ジャン先生との英語学習ももちろん!手助けしてもらって英語をもっともっと勉強したいなと強く思うようになりました。

まず、『ラフティング』は、移動している時のバスの中で、お兄さんがボートから落ちた時の注意を話していたので、自分が落ちたらどうしようと乗るまですっと不安だったし、ライフジャケットがきつくて息をするのは大変で、怖さばかりが頭をよぎっていました。しかし、乗り始めて少しすると、一気に怖さが吹き飛びました。あのスピード感と水しぶきが忘れられません。途中すごい滝があるとお兄さんが言っていたので、楽しみにして乗っていたら、いきなりボートが横に揺れて、水がたくさんかかってきました。ビックリしたけど、あの感覚は生まれて初めてで今でも忘れられません。



次に『乗馬』は、やった事がなかったので行く前から楽しみにしていました。でも乗る所に行くとなるとたくさん馬がいて怖かったです。私が乗った馬の名前は「ジャーニー」です!色は白くて可愛かったです。でも乗り始めると全然言う事を聞いてくれませんでした……。例えば「止まれ」という意味のひもを引く動作をしても止まらなかったり、勝手に草を食べたり……。多

分私が最初から弱気だったのが馬にも分かってしまったからだと思います(泣)でもちゃんと最後まで歩いてくれたし、景色もきれいだったし、何よりもすごく楽しかったのでいい思い出になりました。

そして、私がコロラドに行って一番心に残っている事はホストファミリーと一緒に過ごした事です。中でも「習字」を一緒に書いた事が印象に残っています。私はペンに「優」、ジュリーに「花」、アインスリーに「愛」、アディソンに「笑」という字を書きました。みんなとても喜んでくれて、書いて良かったなと思いました。私が書いた後にアインスリーとアディソンも書いてくれて嬉しかったです。みんなで日本の書道を楽しむことができて良かったです。



実は私は、コロラドに行く前は、英語に自信がなくて、外国でもちゃんと話せるのかなと不安になっていました。しかし、ホストファミリーもタカさんもみんなが優しく接してくれて、毎日が幸せと感動であふれていました。本当に行って良かったなと思っています。でも心残りは英語がまだちゃんと聞き取れなくて自分の気持ちをしっかりと伝えることが出来なかったことです。だから私は、今からもっともっと英語を勉強して、自分の言いたいことを伝えて相手の思いも理解できる人になりたいです。そしていつかもう一回コロラドに行ってお世話になった人たちにまた会って、少しでも成長した自分を見せたいです。それまでに、英語を完ぺきに出来るように頑張ります！！

国際村のスタッフの皆さんには、本当にお世話になりました。また、いろいろなイベントに参加したいと思います。多くの人と出会えたこの夏が、最高のものになりました！！ありがとうございました！





(公財)出羽庄内国際交流財団